

■児童の学力の状況

- 問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを端的にまとめて伝えたりすることが苦手である。
- 「文章を書く(要約等)」「比較・関連付けて読み取る」「語と語の関係を捉える」等の力がやや低い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 意見交流の場面では、自分の考えを端的に述べたり相手の考えを要約して聞いたりする力を付けるための指導を工夫する必要がある。
- 自分の学びの振り返りを次につなげるための課題設定や問いを工夫する必要がある。
- 語彙力を高めるための言語環境を整える必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 語彙力を高め、読み解く力や表現力の基礎を作る。
- 説明、批判、論述、討論、話し合いなどの言語活動を充実させるとともに、ICT及び思考ツールを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る授業を実施する。
- 体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に設定し、論理的思考力・主体的な判断力・豊かな表現力を育てる。
- 指導計画、評価計画に基づいた適正な教育課程を実施する。
- 学び合いのある授業を実施する。
- 「hyper-QU」や「ふれあい月間アンケート」の活用により学級集団の状況を把握し、学力向上の基盤となる望ましい集団をつくる。
- コミュニティ・スクールとして、地域の教育資源を積極的に活用した授業を実施する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
○「板橋区授業スタンダード」に基づいて一単位時間の学習の流れを設定し、めあてに沿った振り返りを行うことにより、自己評価力を高め、次に繋がられるようにする。	☆一人一人が自分の考えをもち、友達の考えを聞いたり話し合ったりすることを通して、自分の考えと比較し組み合わせながら、よりよい考えを創り出せるようにする。	○本時又は本単元で児童が身に付ける能力(ねらい)を明確に認識して授業を行い、机間指導等でポイントを絞った指導と評価、支援を行う。又、本時・本単元の指導目標に照らし合わせた児童の学習状況を把握する。

■いたばし学び支援プラン2021の実現に向けた取組

教員の指導力向上	ICT機器の活用	保護者・地域との連携・協働
○教職員の課題に応じ、全教員が様々な研修会に参加するとともに、日々の授業公開や専門性を生かした「成増OJT」を通して教員同士で学び合い、指導力の向上を図る。 ○板橋区教科等指導専門官の公開授業に参加し、指導力向上に努める。 ○「板橋区授業スタンダード」を徹底する。 ○いたばしの教育ビジョン研究奨励校として、ITCの活用、外国語教育の充実を努める。	○全学級で電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解を深めたり、生徒の考えの共有化を図ったりする。 ○一人一台端末を活用し、話し合いの内容を共有したり、個に応じた課題に取り組んだりする。	○学校支援地域本部事業における地域人材による教育活動への支援を実施する。 ○「学びのエリア」で連携し、学力向上、いじめ、不登校、中一ギャップ等の今日的な教育活動の解決を目指した活動を行う。 ○家庭学習についてのねらいを保護者に伝え、家庭学習の習慣の定着を図る。